

フェストロリウム「なつひかり」は 越夏後の収量が優れている

福島県農業総合センター 畜産研究所 飼料環境科

部門名 飼料作物－草地－品種

担当者 菅野那奈、木村有希、片倉真沙美、國分洋一、柳田和弘、萩原瞳

I 新技術の解説

1 要旨

フェストロリウムの新たな品種「なつひかり(那系 37 号)」が育成されたため、本県の気象条件等に適しているか生育特性等を 3 年間調査した結果、「なつひかり」は県の奨励品種の「東北 1 号」より収量性が高く、特に越夏性に優れていた。

- (1) 「なつひかり」の越夏性及び最終刈り取り後の被度は、「東北 1 号」と比較して優れていた(表 1)。
- (2) 「なつひかり」の越夏後の収量は「東北 1 号」より多く、3 年間の合計乾物収量も多かった(図 1、表 2)。

2 期待される効果

- (1) 「なつひかり」が新たな奨励品種に選定され普及することにより、越夏後も粗飼料の安定生産が期待できる。

3 適用範囲

- (1) 県内全域

4 普及上の留意点

- (1) 試験は福島県農業総合センター畜産研究所内ほ場(福島市荒井：標高 295m、3 年間平均気温 12.6°C)で行った。
- (2) 草勢が衰える可能性があるので盛夏時の刈り取りは避ける。
- (3) 「なつひかり」は 2027 年販売開始予定である。

II 具体的データ等

表1 生育特性

品種・系統名	出穂始			発芽の良否 (播種後17日)	定着時草勢 (播種後41日)	越冬性	越夏性	病害 発生程度	秋の被度 (%)
	2022年	2023年	2024年						
なつひかり	5/10	5/15	5/14	4.3	4.7	5.6	7.0	3.0	53
東北1号	5/10	5/9	5/14	3.7	3.7	6.9	5.0	4.0	24

1)越冬性、越夏性、病害発生程度、秋の被度は3ヵ年の平均値。

2)発芽良否、定着時草勢、越冬性、越夏性は極不良を1、極良を9とした評点法で示す。

3)病害発生程度は2022年と2023年8月、2024年9月に発生した葉腐病。無を1、甚を9とした評点法で示す。

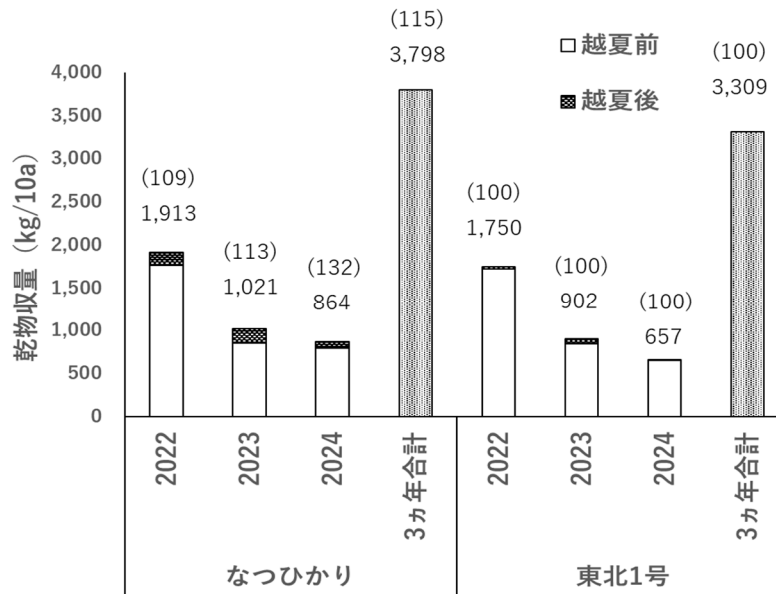


図1 3年間の乾物収量

1) 越夏前収量は8月までの収量、越夏後収量は9月以降の収量

2) ()内の数字は「東北1号」を100とした場合の値

表2 越夏前後の乾物収量 (kg/10a)

	越夏前				越夏後			
	2022年	2023年	2024年	3ヵ年合計	2022年	2023年	2024年	3ヵ年合計
なつひかり	1,759	847	795	3,401	154*	174*	69*	397*
東北1号	1,722	840	650	3,212	28	62	7	97

1)越夏前の「なつひかり」と「東北1号」、越夏後の「なつひかり」と「東北1号」の各年、3ヵ年合計について t 検定を行った(*p<0.05)。

2)越夏前収量は8月までの収量、越夏後収量は9月以降の収量。

III その他

1 執筆者

菅野那奈

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～7年度

(2) 研究課題名 牧草・飼料作物の優良草種・品種の選定

3 主な参考文献・資料

(1) 飼料作物系統適応性試験実施要領,2023